

柑芦会 東海支部

東海ニュース
第 130 号 2017. 12. 10



1 東海支部の活動

(1) 東海支部 総会・講演会・懇親会

平成 29 年 11 月 18 日（土）、ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋にて東海支部総会が開催されました。総会では、山口支部長、青柳柑芦会会長、瀧学長からご挨拶をいただきました。

支部総会の議事では、東海支部の年会費の納入状況が紹介され、昨年の 66 名 181,008 円から 49 名 147,000 円に減少しました。支部の活動のため、年会費の納入にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

講演会では、経済学部長の藤永博氏から、「経済学部への思い—25 年前、現在、25 年後」と題して、先生のこれまでのご経験や和歌山大学経済学部の取り組みについて講演いただきました。

講演の中では、自身の経験を踏まえた同窓会通じた大学への帰属意識の重要性や、当時、国立大学で唯一スポーツ推薦制度を導入された際のご苦労やその思い、和歌山大学の現状などについてお話しいただきました。

中でも印象的だったのは、「多様性」というキーワード。スポーツ推薦制度も運動部の強化のためではなく、多様な学生が大学に集まることによる効果を狙ったこと。また、入学してきた学生をどのような人材にして世に送り出すのかといった出口を意識した教育の重要性について熱く語っていただきました。

また、来年を目途に 18 歳以下の人口が減少期に入り、大学の淘汰や学生獲得競争が過熱する「2018 年問題」にも触れられ、例えば、社会人経験者に教える側として大学に戻ってきてもらう仕組みなどを考えていることなど、私たち卒業生に対するメッセージも数多くありました。

その後の質疑応答では、「数ある大学の中で、和が大がどのように映っているのか。残る・輝く大学になるために特色ある大学づくりが重要である」「やらなければならないことだけが決められ、その方法は各主体に任されている現状を踏まえ、自ら考えられる人材が社会に求められている」などの意見が出されました。

柑芦会の活動は、タテの関係を学ぶことの出来る貴重な場であり、日頃の生活や業務の中では得られない気付きを得られる場であることを改めて感じました。

講演会は、予定された時間いっぱいまで行われ、その後恒例の写真撮影から懇親会へと進みました。





(2) 柑芦会東海支部秋のゴルフ会 in 瀬戸市品野台CC

11月9日に柑芦会東海支部秋のゴルフ会が、瀬戸市品野台CCで開催されました。幹事の20期伊藤さんからご報告がありましたので、お知らせいたします。

柑芦会東海支部ゴルフ会秋の部（第61回）を11月9日（木）愛知県瀬戸市の品野台CCで開催しました。

今回は3組12名の参加でした。久しぶりに14期廣地義範さん、17期酒井不二夫さんの参加があり、また、18期足立信彦さんと23期日比茂さんの奥様も昨年に続き特別参加していただきました。

いつもより華やいだ雰囲気の中でプレーがスタート。

天気は昨日の雨が上がって、すっきりとした晴れ間が広がり絶好の天候。時折吹く強い風がクラブ選択を迷わせましたが、自身の持つ技量をフルに発揮しての熱戦が繰り広げられました。

優勝は大学18期の足立信彦さん。87のベスグロでの圧巻の優勝でした。奥様の前で面目が立って思わずにっこり。

来年春の部は、平成30年3月24日（土）に名古屋市の鳴海CCで開催予定。次回の再会を期してお開きとなりました。

添付写真はクラブハウス前の練習グリーン前での集合写真です。

＝参加者募集＝

このゴルフ会参加希望の方は、東海ニュース発行者にご連絡ください。他支部の方も含め初参加大歓迎です。

＜柑芦会東海支部ゴルフ会＞

原則、年2回 春（3月土曜日）に鳴海CC、秋（11月第2週目木曜日開催）に品野台CCを予定しています。

